平成 27 年度　岐阜工業高等専門学校シラバス					
教科目名	総合演習Ｉ	担当教員	廣瀬康之		
学年学科	４年　環境都市工学科	後期	必修	1 単位(学修)	
学習・教育目標	（Ｃ－１）２０％、 （Ｄ－４（１））５０％、（Ｄ－４（２））３０％				

授業の目標と期待される効果：

本授業では、これまで環境都市工学科で学んできたことを総合的に演習する。各自が講師となり、模擬授業（演習問題の準備・解説など）を行うことで、コミュニケーション能力を養い、さらに自己学習・自発的学習の習慣を養う。また、専門分野に関する知識を確実にすることを目的とする。また、一般分野の知識についても広く身につけるようにする。

①プレゼンテーション能力を身につける
（Ｃ－１）
②人に教えることを通して、コミュニケーション能力を身につける
（Ｃ－１）
③模擬授業の準備を通して、自己学習・自発的学習の習慣を養う
（Ｃ－１）
④社会基盤整備，循環型都市づくりのための専門分野の基本的問題が解けるようになる
（Ｄ－４（１），（２））
⑤一般分野の知識を広く身につける
⑥卒業研究について予備知識を得る

成績評価の方法：

総得点 150 点＝中間試験 50 点＋プレゼンテーション 30 点
＋課題（小論文等）20 点＋期末試験 50 点
総得点率（%）によって成績評価を行う
試験、プレゼンテーションには教室外学修の内容を含む

達成度評価の基準：国家公務員土木職採用試験（一般職）および教科書の演習問題と同等レベルの問題を試験等で出題し，総合して 6 割以上の正解レベルまで達していること。下記①～⑥の成績評価への重みは均等である。

①適切なプレゼンテーション能力を身につけることができる
②専門分野の基本をほぼ正確(7 割以上)に説明でき、人に教えることを通して、コミュニケーション能力を身につけることができる。
③模擬授業の準備を通して、自己学習・自発的学習の習慣を養い、専門分野の基本をほぼ正確(7 割以上)に説明できる。
④社会基盤整備，循環型都市づくりのための専門分野の基本的問題を 6 割程度以上解くことができる。
⑤一般分野の知識を広く身につけ 6 割程度以上解くことができる。
⑥卒業研究について予備知識を 6 割程度得ることができる。

授業の進め方とアドバイス：

学生各自が持ち回りで講師となり、専門分野に関する演習を行う。その問題の解答ばかりでなく、関連知識なども併せて解説する。一般分野に関する演習は小論文形式で行う。また、各教員より研究内容のガイダンスを受け、各自が卒業研究として取り組みたいテーマについて予習を行う。
なお、中間試験、期末試験の出題は教室外学修の範囲から出題し教室外学修を確認する

教科書および参考書：

教科書：土木職公務員試験 専門問題と解答 必修科目編 第２版（米田・大学教育出版）を用いる
その他，適宜プリントを配布する

授業の概要と予定：後期	教室外学修	ＡＬのレベル
第　１回：授業の進め方のガイダンス	公務員試験の概要を調べる	C
第　２回：専門分野に関する演習問題割り当て	教科書【構造力学】問題演習	C
第　３回：割り当てられた演習問題に関するプレゼン資料作成	教科書【構造力学】問題演習	C
第　４回：プレゼンテーション実践その１	教科書【構造力学】問題演習	A
第　５回：プレゼンテーション実践その２	教科書【構造力学】問題演習	A
第　６回：プレゼンテーション実践その３	教科書【水理学】問題演習	A
第　７回：プレゼンテーション実践その４	教科書【水理学】問題演習	A
第　８回：中間試験	教科書【水理学】問題演習	
第　９回：社会のニーズと卒業研究テーマ 1	教科書【水理学】問題演習	C
第１０回：社会のニーズと卒業研究テーマ 2	教科書【土質力学】問題演習	C
第１１回：社会のニーズと卒業研究テーマ 3	教科書【土質力学】問題演習	C
第１２回：社会のニーズと卒業研究テーマ 4	教科書【土質力学】問題演習	C
第１３回：一般分野に関する演習（小論文その１）	小論文の問題を解く	C
第１４回：一般分野に関する演習（小論文その２）	小論文の問題を解く	C
第１５回：一般分野に関する演習（小論文その３）	小論文の問題を解く	C
期末試験	－	
第１６回：フォローアップ（期末試験の解答の解説など）	－	C

*モデルコアカリキュラム検討結果を踏まえ、H27 年度から新規に取り入れた内容

評価（ルーブリック）

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 （優）	標準的な到達 レベルの目安 （良）	未到達 レベルの目安 （不可）
①	適切なプレゼンテーション能力を評価8割程度以上身につけることができる。	適切なプレゼンテーション能力を評価 6 割程度以上身につけることができる。	適切なプレゼンテーション能力を身につけることができない。
②	専門分野の基本を正確(8割以上)に説明でき、人に教えることを通して、コミュニケーション能力を評価8割程度以上身につけることができる。	専門分野の基本をほぼ正確(6 割以上)に説明でき、人に教えることを通して、コミュニケーション能力を評価 6 割程度以上身につけることができる。	専門分野の基本を正確(6割以上)に説明できず、人に教えることを通して、コミュニケーション能力を身につけることができない。
③	模擬授業の準備を通して、自己学習・自発的学習の習慣を養い、専門分野の基本を正確(8 割以上)に説明できる。	模擬授業の準備を通して、自己学習･自発的学習の習慣を養い､専門分野の基本をほぼ正確(6 割以上)に説明できる。	模擬授業の準備を通して、自己学習・自発的学習の習慣を養い、専門分野の基本を正確(6 割以上)に説明できない。
④	社会基盤整備，循環型都市づくりのための専門分野の基本的問題を8割程度以上解くことができる。	社会基盤整備,循環型都市づくりのための専門分野の基本的問題を 6 割程度以上解くことができる。	社会基盤整備，循環型都市づくりのための専門分野の基本的問題を 6 割程度以上解くことができない。
⑤	一般分野の知識を広く身につけ8割程度以上解くことができる。	一般分野の知識を広く身につけ 6 割程度以上解くことができる。	一般分野の知識を広く身につかず 6 割程度以上解くことができない。
⑥	卒業研究について予備知識を8割程度得ることができる。	卒業研究について予備知識を 6 割程度得ることができる。	卒業研究について予備知識を 6 割程度得ることができない。